

大学の世界展開力強化事業 構想概要 関西学院大学

【構想の名称】(タイプB-Ⅱ)

日加大学協働・世界市民リーダーズ育成プログラム「クロス・カルチュラル・カレッジ」

【構想の概要】

本学とカナダの3協定大学が連携し、異文化理解やコミュニケーション力を持ち、多文化を共生させながら、グローバル社会の持続的な発展と成長に寄与するリーダーシップを持つ世界市民を育成するために、「クロス・カルチュラル・カレッジ」を共同で構築する。

■ プログラムの目的・養成する人材像

○ 世界市民リーダーを養成

多文化共生社会・カナダの3大学、マウント・アリソン大学、トロント大学、クイーンズ大学と本学が共同でCross-Cultural College (CCC)を構築し、豊かな国際コミュニケーション能力、論理的かつ実践的な分析力、国際的な場での高度な課題発見・解決能力、多文化環境を越えた国際理解力・行動力を備えた人材の養成に向けて協働する。

○ Cross-Cultural Studiesをテーマとした学士レベルの協働教育プログラム

CCCは、両国の学生が日加を行き来しながらともに学ぶ”Certificate Program (CP)” (使用言語は英語)と本学学生を主対象に、CPへの参加を可能にする基礎的な知識や国際経験、英語能力を涵養する”Multidisciplinary Studies Program (MDS)” から構成されており、CPで所定の要件を満たした学生にはCCCから修了証書を、これに加えてMDSでも所定の要件を満たした学生には本学から複数分野専攻制修了証書を授与する。

(マウント・アリソン大学)



■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成

CCCには各大学代表からなる共同運営委員会と、その下に各大学の教務担当者からなる共同教務委員会を設置する。共同教務委員会はカリキュラムの構成や授業内容を共同で検討、実施する。協働で開発する科目については統一的なガイドラインを設け、授業内容の定期的な点検と自己評価を行う。さらに、実社会のニーズを反映した実践的な教育の質を保証するため、産業界や行政等の外部識者からなるアドバイザーボードを設け、共同運営委員会に対して助言・講評を行う。

(トロント大学)



■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ ホームページで情報発信、他大学の参加も視野に

本構想における取組は、日英両言語で積極的に発信する。独自のホームページを立ち上げ、教育プログラムの内容のほか、活動の報告も逐次掲載する計画。日加両国の学生に十分な情報を提供するとともに、他大学の良い参考となることをめざす。また、対応可能な科目から順次、他大学学生の参加を可能にし、将来的には他大学学生もCPの修了証を取得できる体制を整備する。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 日本人学生の派遣

本学は学業生活や就職活動に関する情報はすべてインターネット上で提供しており、学生は留学中も問題なく情報にアクセスすることができる。また、本教育プログラムにおける派遣学生の募集にあたっては、カナダ側3大学との綿密な情報交換・調整のもと、ホームページに詳細情報を掲載するほか、説明会や相談会を複数回実施し、個別相談にも随時応じる。

○ 外国人留学生の受入

本学国際教育・協力センター留学生総合支援課が一元窓口となり、本構想の推進室や学内他部署、学外諸機関と密接に連携しながら外国人学生の受入から学生生活、キャリア支援に至るまで適切なサポート、サービスを総合的に提供する。また、本学トロントオフィスに常駐する職員が、適宜カナダ側学生に情報提供し、相談に応じる。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 多様な交流プログラムで日本とカナダの学生が共に学ぶ

CPでは、実践の場で日加の学生が交流しつつ学ぶことを重視。産業界と連携した科目の例に、日加の学生がペアで就業体験を行う「グローバルインターンシップ」のほか、産業界が提示した課題を日加の学生がチームを作って分析し、解決策を企業へ合同でプレゼンテーションする「グローバルキャリアゼミ」がある。また、日加それぞれ約20人の学生が両国で各2週間滞在し、多文化共生をテーマにフィールドワークやグループ発表を行う「ジョイントセミナー」も実施する。

○ 日本人学生の派遣

本学では現在年間800人の学生が留学している(うち400人の留学先がカナダ)。このうち約60名がMDSプログラムを受講し、その後45名がCPIに参加することを想定してプログラムを設計しており、平成27年度までに延べ150人程度を派遣する。

○ 外国人留学生の受入

上述の日加協働型科目のほか、カナダ側学生を対象とするアジア研究サマーコースも実施。日本語学習のほか、英語で日本やアジアについて学ぶ機会を提供する。平成27年度までに延べ180人以上を受け入れる予定。

<2011年11月現在の計画>

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	8人	20人	20人	45人	45人
学生の受入	0人	45人	45人	45人	45人

大学の世界展開力強化事業 取組実績 関西学院大学

【構想の名称】(タイプB-Ⅱ)

日加大学協働・世界市民リーダーズ育成プログラム「クロス・カルチュラル・カレッジ」

【プログラムの目的・養成する人材像】

豊かな国際コミュニケーション能力、論理的・実践的な分析力、国際的な場での高度な課題発見・解決能力、行動力およびリーダーシップを備え、グローバル社会の持続的な発展と成長に寄与する「世界市民リーダーズ」を養成する。

【構想の概要】

本学とカナダの3協定大学(マウント・アリソン、クイーンズ、トロント)が連携し、両国の学生が日加を行き来しながらともに学ぶ学士レベルの共同教育プログラム“Cross-Cultural College (CCC)”を設置する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 共同運営委員会、共同教務委員会が発足

日加4大学がCCCに向けて協働することを最終合意し、協定書に調印しました。これにより、学長・副学長級が委員となりCCCの運営全体に責任をもつ「共同運営委員会」と、CCCに関する各大学の教務担当教職員で構成する「共同教務委員会」が発足。その後、これらの委員会が共通事項(第1次共通ガイドライン)について合意しました。

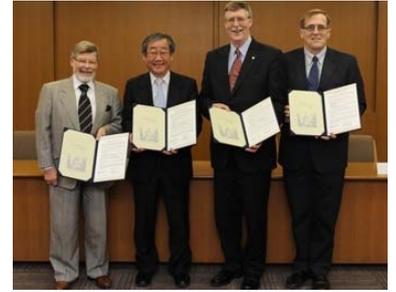
○ 質保証に関するセミナーを開催

日加の認証評価等について互いに紹介する「Quality Assurance Seminar」を他大学にも公開して実施しました。日加の相違点について理解を深め、CCCの質保証に役立てます。

○ 産官民の識者から助言・講評を聴取

産官民の識者6人からなる「アドバイザー・ボード」を形成し、第1回目の委員会を実施しました。CCCのコンセプトや今後の事業計画案について忌憚ない意見や助言等を聴取しました。

(4大学の代表者が協定書に調印)



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況



(Joint Seminar Pilot Program)

○ Joint Seminar Pilot Programを実施

本事業の教育プログラムの核となる科目の一つ「Joint Seminar」について、クイーンズ大学で1週間・日加学生各8人(計16人)規模で試行、交流プログラムを実施するうえでの課題や成果を検証しました。異文化の相互理解、日加学生の協働という教育面では予想以上に高い成果を得ることができました。

○ 平成24年度学生モビリティ科目を共同教務委員会で確認

平成24年度実施の学生モビリティ科目(詳細は下記「交流プログラムにおける学生のモビリティ」を参照)について、共同教務委員会がシラバス等を確認、当該年度の実施内容を確定しました。また、本学はリスク管理に関するガイドラインも策定しました。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 多様な交流プログラムで日本とカナダの学生が共に学ぶ

日加の学生が交流しつつ学ぶことを重視。産業界と連携した科目の例に、日加の学生がペアで就業体験を行う「Global Internships」(GI)のほか、産業界が提示した課題を日加の学生がチームを作って分析し、解決策を企業へ合同でプレゼンテーションする「Global Career Seminar」(GCS)があります。日加それぞれ約20人の学生が両国で各2週間滞在し、多文化共生をテーマにフィールドワークやグループ発表を行う「Joint Seminar」(JS)も実施。また、JSまたはGIに参加するカナダ側学生を主対象に、日本や東アジアについて学ぶ6週間の「Asian Studies Summer School」(ASSS)も開講します。

○ 日本人学生の派遣

JSで24～25年度は各年20人、26～27年度は各年30人。加えてGIで26年度以降は各年2人、GCSで27年度に20人を派遣する計画です。

○ 外国人留学生の受入れ

JSで24～25年度に各年20人、26～27年度は各年30人、GIで24～25年度に各年10人、26～27年度は各年8人、GCSで24～26年度に各年20人を計画しています。ASSSは各年20人程度を予定しています。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	8	20	20	32	52
学生の受入	0	70	70	78	58

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

(注)H23は実績、H24以降は計画。

○ 日本人学生の派遣 カナダ側大学の協力を得てのStudy Abroad Fairも実施

本学は学業生活や就職活動に関する情報はすべてインターネット上で提供しており、学生は留学中も問題なく情報にアクセスすることができます。また、本教育プログラムにおける派遣学生の募集にあたっては、カナダ側3大学との綿密な情報交換・調整のもと、ホームページに詳細情報を掲載するほか、説明会や相談会を複数回実施し(一回はカナダ側教職員も招聘して「Study Abroad in Canada Fair」として実施)、個別相談にも随時応じています。

○ 外国人留学生の受入

本学国際教育・協力センター留学生総合支援課が一元窓口となり、本構想の推進室や学内他部署、学外諸機関と密接に連携しながら外国人学生の受入から学生生活、キャリア支援に至るまで適切なサポート、サービスを総合的に提供しています。また、本学トロントオフィスに常駐する職員が、適宜カナダ側学生に情報提供し、相談に応じています。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ webサイト、冊子等の制作

23年度中の活動や24年度の計画について取りまとめた冊子媒体(2種類)を発行しました。ウェブサイト(<http://ccc-canada.jp>)では教育内容や活動の成果、今後の計画等を逐次公開するほか、冊子媒体等もダウンロードできるようにしています。

大学の世界展開力強化事業 取組概要 関西学院大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプB-Ⅱ))

日加大学協働・世界市民リーダーズ育成プログラム「クロス・カルチュラル・カレッジ」

【プログラムの目的・養成する人材像】

豊かな国際コミュニケーション能力、論理的・実践的な分析力、国際的な場での高度な課題発見・解決能力、行動力およびリーダーシップを備え、グローバル社会の持続的な発展と成長に寄与する「世界市民リーダーズ」を養成する。

【構想の概要】

本学とカナダの3協定大学(マウント・アリソン、クイーンズ、トロント)が連携し、両国の学生が日加を往来しながらともに学ぶ学士レベルの共同教育プログラム“Cross-Cultural College (CCC)”を設置・運営する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

〈FD/SDセミナーのパネルディスカッションの様様〉

○ 共同運営委員会、共同教務委員会を開催

平成23年度同様、日加4大学の学長・副学長級が委員である共同運営委員会、および各大学の教務担当教職員で構成する共同教務委員会を開催。24年度開催のサマープログラム概要報告を行い、その改善点や次年度のプログラム概要につき協議した。

○ FD/SDセミナーを開催

「カナダの大学におけるFD/SD」と題したセミナーを一般公開にて開催。クイーンズ大学副学長の基調講演やカナダ3大学のパネリストによるパネルディスカッションを実施した。



○ アドバイザリー・ボード会議を開催

産官民の外部識者からなる「アドバイザリー・ボード」会議を開催し、24年度の教育プログラムや事業運営の報告を行った。本事業の自己評価についての外部評価を受けて「質保証」に努めるとともに、次年度以降の事業計画案等に対する提言を受け、日加の産業界や社会のニーズを取り入れることが可能となった。

■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈Global Career Seminar プレゼンテーション〉



○ 多様な交流プログラムで日本とカナダの学生が共に学ぶ

来日するカナダの学生を主対象に日本と東アジアについて学ぶAsian Studies Summer School (ASSS)を7月に実施。8月には、日加の学生が両国で各2週間滞在し、多文化共生をテーマにグループ研究やフィールドスタディを行うJoint Seminar(JS)と、日加の学生がペアになり企業等での就業体験を行うGlobal Internship(GI) in Japanを実施した。さらに、2月には企業が提示した課題を日加の学生がチーム毎に解決し、解決策を企業へ合同で提示するGlobal Career Seminar(GCS) in Japanを実施した。

○ Global Internshipのモビリティ拡大

25年度はGI in Japanの参加学生枠を倍増して実施。さらに26年度からは、カナダにおいてGIを実施予定。新規プログラム開発において、4大学間で連携を図りながら、運営準備を行っている。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

JSにおいて4年生2名、3年生15名、2年生3名の計20名をトロント大学に派遣した。26年度はGIをカナダでも実施し、JSと併せ、45名の日本人学生をカナダに派遣する予定。

○ 外国人留学生の受入れ

24年度はJSで20名(内10名はASSSにも参加)、GIで10名(10名全員がASSSにも参加)、GCSで20名の計50名(マウント・アリソン大学生8名、クイーンズ大学生17名、トロント大学生25名)の学生を受入れた。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	8	27	58	99	105
学生の受入	0	50	45	45	45

注)H23・H24は実績、H25以降は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 日本人学生の派遣

カナダ側3大学の教務担当者を招き実施したカナダ留学フェアでは、大学毎のプレゼンテーションの他、相談ブースを設置し、留学に対する関心を高めた。また、昨年度のプログラム参加者による成果発表会や、プログラム説明会を実施したほか、国際教育・協力センターにおいては、常駐する留学アドバイザーを中心に、学生からの個別相談に随時応じている。

○ 外国人留学生の受入

トロント大学内に設置されている本学トロントオフィス常駐の職員が、カナダ3大学の担当者と密に連携して情報交換を行い、円滑なプログラム運営を行った。本プログラムの募集説明会を3協定大学と共同で開催した他、メーリングリストを活用し、カナダ学生からの個別の質問等にも必要に応じて細やかに対応した。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ Webサイト・広報冊子等の制作

交流プログラム実施の様子や、留学フェア、セミナー、募集説明会の詳細情報等を随時ホームページに掲載し、教育内容や活動の成果・今後の計画等広く公開するよう努めている。(ウェブサイト <http://ccc-canada.jp>)

○ プログラム修了証

24年度末で所定要件を満たした修了者(日加合計21名)に対し、プログラム修了証を授与した。

大学の世界展開力強化事業 取組概要 関西学院大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプB-Ⅱ))

日加大学協働・世界市民リーダーズ育成プログラム「クロス・カルチュラル・カレッジ」

【プログラムの目的・養成する人材像】

豊かな国際コミュニケーション能力、論理的・実践的な分析力、国際的な場での高度な課題発見・解決能力、行動力およびリーダーシップを備え、グローバル社会の持続的な発展と成長に寄与する「世界市民リーダーズ」を養成する。

【構想の概要】

本学とカナダの3協定大学(マウント・アリソン、クイーンズ、トロント)が連携し、両国の学生が日加を行き来しながらともに学ぶ学士レベルの共同教育プログラム"Cross-Cultural College (CCC)"を設置・運営する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 共同運営委員会、共同教務委員会を開催

24年度同様、日加4大学の学長・副学長級が委員である共同運営委員会、および各大学の教務担当教職員で構成する共同教務委員会を11月に開催。25年度開催の教育プログラム概要報告を行い、その改善点や次年度の事業運営およびプログラム概要につき協議した。

○ 国際協働プログラム公開セミナーを開催 <http://www.ccc-canada.jp/folder/post-5.html>

「日本とカナダの大学における国際戦略とCross-Cultural College」と題したセミナーを2月に一般公開。学生による成果報告や、カナダ側参加大学、大使館を招いてのパネルディスカッションを実施した。

○ アドバイザリー・ボード会議を開催

外部識者からなる「アドバイザリー・ボード」会議を2月に開催。25年度の教育プログラムや事業運営の報告を行い、本事業に対する外部評価を受けて「質保証」に努めるとともに、次年度以降の事業計画案等に対する提言を受けた。

〈公開セミナーにおける学生の成果報告〉



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈Global Internship 日加ペアでの就業体験〉



○ 多様な交流プログラムで日本とカナダの学生が共に学ぶ場を提供

前年度に引き続きAsian Studies Summer School (ASSS)、およびコア科目となるJoint Seminar (JS) in Japan & Canada、Global Career Seminar (GCS) in Japan、Global Internship (GI) in Japanを7~8月に実施。さらに2月には本年度2度目のGCS in Japanを実施した他、次年度コア科目への参加を希望する本学学生を対象に、カナダ学生とのグループ研究を实践する場を提供するCross-Cultural Workshop (CCW)をカナダにて実施した。

<http://www.ccc-canada.jp/reports/2013.html> (25年度活動報告)

○ カナダで開催するコア科目の拡充

26年度8月にはGI in Canadaを、2月にはGCS in Canadaを新規で実施予定。両プログラムとも、受入・協力企業は既に決定しており、実施に向け順調に準備を進めている。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

JSで6名をマウント・アリソン大学に、CCWで19名をクイーンズ大学に派遣した。その他、本プログラム参加学生で交換留学、中期留学、外国語研修等に参加した学生は44名。

○ 外国人留学生の受入れ

ASSS、JS、GI、2度のGCSで計62名(マウント・アリソン大学11名、クイーンズ大学17名、トロント大学34名)の学生を受け入れた。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	8	27	69	99	105
学生の受入	0	50	62	45	45

注)H23~H25は実績、H26以降は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 日本人学生の派遣

全学的な取組としては、本学学生の海外派遣への興味・関心を高めることを目的に「留学フェア」を10月に開催。留学経験者や外国人留学生、さらにはカナダ大使館等の外部機関の協力の下、各種留学相談に対応できる場を提供した。本プログラム独自の取組としては、英語のみで会話を行う「English Café」を実施。英語力の向上に加え、Global awarenessを養うことを目的に会話テーマを設定し、交換学生の協力の下、週に一度開催している。その他、本プログラム参加者対象の交流会を開催。参加者同士が情報交換を行い、刺激し合うことにより、留学への意欲が喚起されるピア・サポートの仕組みを創出した。また、本プログラム参加者を対象に、学期ごとの学習等達成度記録簿の作成と面談を導入。コーディネーター教員が学生の履修状況を確認し、助言を行うことにより、本プログラムの修了、ならびに海外への留学を支援・促進している。

○ 外国人留学生の受入

11月にカナダ内でプログラムの募集説明会を開催。参加学生にも体験談を話してもらうなど、細やかな情報提供に努めた。また、トロント大学内に設置されている本学トロントオフィスに常駐する本学職員が、カナダ3大学の担当者との調整・情報共有を密に行い、カナダ学生に迅速かつ的確に情報提供を行っている。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

○ Webサイト・広報冊子等の制作、セミナーの開催

交流プログラム実施の様子を随時ホームページやfacebookに掲載するだけでなく、一般公開のセミナーを通じて、教育内容や活動の成果を広く公開するよう努めている。また、プログラム参加者の学習成果(ラーニング・アウトカム)の可視化を目的とし、本プログラム参加者のインタビュー動画の撮影も進めている。

○ プログラム修了証書

25年度に所定要件を満たした修了者(日加合計25名)に対し、プログラム修了証書を授与。

大学の世界展開力強化事業 H26取組概要 関西学院大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプB-Ⅱ))

日加大学協働・世界市民リーダーズ育成プログラム「クロス・カルチュラル・カレッジ」

【プログラムの目的・養成する人材像】

豊かな国際コミュニケーション能力、論理的・実践的な分析力、国際的な場での高度な課題発見・解決能力、行動力およびリーダーシップを備え、グローバル社会の持続的な発展と成長に寄与する「世界市民リーダーズ」を養成する。

【構想の概要】

本学とカナダの3協定大学(マウント・アリソン、クイーンズ、トロント)が連携し、両国の学生が日加を行き来しながらともに学ぶ学士レベルの共同教育プログラム“Cross-Cultural College (CCC)”を設置・運営する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ アドバイザリー・ボード会議に高等教育質保証の専門家を新たに招聘

社会ニーズを迅速かつ的確にCCCに反映すべく、産業界中心のメンバー構成で開催してきたアドバイザリーボード会議に、高等教育質保証の専門家である大学教授を、26年度より新たな委員として招聘。アカデミックな観点からも専門的なアドバイスを得ることにより、より質保証を意識した事業運営を行える状態を整えた。

■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈日加学生協働学習の様子(GCSinCanada)〉



○ Global Internship, Global Career Seminar 初のカナダ開催

トロント大学、日系・現地企業(団体)のご協力の下、構想調書記載通り、上記2科目のカナダ開催を実現した。プログラム運営においては、トロント大学教員と本学教員が協働し、学生指導に当たった。本学学生は、多国籍な環境でのインターンシップを通じて、多民族国家であるカナダの文化を肌で感じ、大変有意義な経験が出来たとコメントしている。また、この2科目については、昨年度までと同様、日本でも開催した。参加学生の一人は「カナダ学生との協働を経験し、効率的かつ論理的に課題に取り組むことの重要性を再認識した」と話しており、CCCプログラムを通じて、実践的な学びを得られたことが分かる。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

上記カナダ開催プログラムのため、トロント大学に学生を派遣した他、CCC参加学生でCross-Cultural Workshop(カナダ・クイーンズ大学で開催)、外国語研修、中期留学、交換留学等に派遣した学生も含めた総派遣者数は124名であり、構想調書時に設定した目標値99名を大きく上回る実績を上げた。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	8	27	69	124	105
学生の受入	0	50	62	50	45

注)H23～H26は実績、H27は計画。

○ 外国人留学生の受入れ

Asian Studies Summer School, Global Internship, Global Career Seminarにて、カナダ3大学(マウント・アリソン、クイーンズ、トロント)から合計50名の留学生を受け入れており、構想調書時に設定した目標値45名を上回る実績を上げた。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ カナダ・トロントリエゾンオフィスの活用(派遣)と国際寮の建設(受入)

本学のトロントリエゾンオフィスに駐在しているスタッフが、カナダ開催のCCCプログラムの調整業務に加え、現地学生への来日のための情報提供および留学中の本学学生のトラブル対応等のサポートを行っている。また学内においては、国際寮の建設が進んでおり、民間宿舎より安価であり参加費を抑えることができるため、受入数増が期待できる。

○ CCC教員による各種ワークショップの実施

“Public Speaking”や“Leadership”というテーマで、本学学生の能力開発を行っている。英語を教えるという視点ではなく、学生の持つ英語力をいかに実践の場で使えるように引き上げるかに焦点を置いており、カナダ学生との協働が必要となるGlobal InternshipやGlobal Career Seminar参加時(特にカナダ派遣時)のパフォーマンス向上を目指している。

〈ワークショップの様子〉



■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開・成果の普及

○ 企業関係者向け公開フォーラムの開催

CCCを広く産業界に浸透させ、さらに今後の産学連携の可能性を議論すべく、初めて企業向けに公開フォーラムを開催。参加者からは「真の国際人の育成が期待される」「実践的で効果的なプログラムであると感じた」「学生にとって大きく成長できる取組だと感じた」などのコメントを頂いたことから、CCCの重要性を認識していただくことが出来た。

○ CCC Promotion Video等を利用した戦略的な広報活動

27年度の取組として、過去の参加者の声や写真をもとにプロモーションビデオを作成。内容がわかりづらいと指摘されていたJoint Seminar, Global Career Seminarの可視化を試みた。また、CCC参加者の就職先が特徴的である点に着目し、『CCCと就職』という切り口で、学生のニーズに合致するプログラムであるということを訴求。本学キャリアセンターや企業の協力を得て、パンフレットやチラシを作成し、本学内でのCCC認知度向上と成果の普及を図った。

【CCC Promotion Video】 <https://www.youtube.com/playlist?list=PLpANqLjIHajPtBd5ULzODb9HpHOBm5a>

大学の世界展開力強化事業 H27取組概要 関西学院大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプB-Ⅱ))

日加大学協働・世界市民リーダーズ育成プログラム「クロス・カルチュラル・カレッジ」

【プログラムの目的・養成する人材像】

豊かな国際コミュニケーション能力、論理的・実践的な分析力、国際的な場での高度な課題発見・解決能力、行動力およびリーダーシップを備え、グローバル社会の持続的な発展と成長に寄与する「世界市民リーダーズ」を養成する。

【構想の概要】

本学とカナダの3協定大学(マウント・アリソン、クイーンズ、トロント)が連携し、両国の学生が日加を行き来しながらともに学ぶ学士レベルの共同教育プログラム“Cross-Cultural College (CCC)”を設置・運営する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

○ 共同運営委員会・共同教務委員会にて補助事業終了後のCCC継続運営に合意

日加4大学の学長・副学長級が委員である共同運営委員会、および各大学の教務担当教職員で構成する共同教務委員会を11月に開催。補助事業期間が終了し、自己資金での運営となる平成28年度以降も、強固な4大学の協働体制の下、質保証を担保しながらCCCを継続運営していくことで合意した。

○ 外部識者からなるアドバイザリー・ボードによる教育の質保証

社会ニーズを迅速かつ的確にCCCに反映すべく、産業界中心のメンバーで構成されるアドバイザリーボード会議を2月に開催。委員からは「アドバイザリー・ボードからの指摘に真摯に対応し、改善案を提示する等、PDCAサイクルを十分意識した運営体制が整備されている」「日本の教育の弱点と言われている『問題解決力と批判的思考力』の向上に、CCCが効果的であることが実証された」とのコメントを頂戴しており、アドバイザリー・ボードを通じたCCCの質保証が有益であったことがわかった。

○ 4大学協働でCertificate Program(CP)を運営 修了者数の目標値を達成

4大学協働で作成したカリキュラムに基づき、所定の16単位とTOEIC®820点相当以上の英語能力を修得した学生に証書を授与するCPの本学修了者数が、5年間の累計で102名となり、構想調書時に設定した95名の目標値を上回る実績を上げた。

■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈Global Internship in Japanの様子〉



○ Global Internship, Global Career Seminar, Joint Seminarの実施

日加学生が寝食を共にしながら協働学習を行うコア科目として、Joint Seminarを日本で、Global Internship, Global Career Seminarを日加両国で実施。事前事後で行ったアンケートによると、全てのプログラムにおいて、学生は自身の成長(異文化コミュニケーション力、協働力など)を実感することができた。

○ 平成28年度開催コア科目実施に向けた準備

補助金事業が終了する平成28年度以降は、学生のニーズの強いGlobal Internship, Global Career Seminarに絞ってコア科目を実施する。また、カナダ3大学以外の協定大学にも開放することにより、より開かれたプログラムとして、発展させていく。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

上記カナダ開催プログラムのため、トロント大学に学生を派遣した他、CCC参加学生でCross-Cultural Workshop(カナダ・クイーンズ大学で開催)、外国語研修、中期留学、交換留学等に派遣した学生も含めた総派遣者数は111名となり、目標値105名を上回る実績を上げた。また、これにより5年間の累積派遣数は339名となり、5年間の目標値278名を上回った。

○ 外国人留学生の受入れ

Joint Seminar, Global Internship, Global Career Seminarにて、カナダ3大学から合計50名の留学生を受け入れており、目標値45名を上回る実績を上げた。また、これにより5年間の累積受入数は212名となり、5年間の目標値175名を上回った。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	8	27	69	124	111
学生の受入	0	50	62	50	50

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ カナダ・トロントリエゾンオフィスの活用(派遣)と民間宿泊施設との法人契約(受入)

昨年度までと同様、本学のトロントリエゾンオフィスに駐在しているスタッフが、カナダ開催のCCCプログラムの調整業務に加え、カナダ現地学生への来日のための情報提供、および留学中の本学学生のトラブル対応等のサポートを行った。また、本学キャンパス付近に新設した国際寮の利用と合わせて、民間宿泊施設と法人契約を結ぶことにより、補助事業終了後も日加の学生に寝食を共にする環境を安価で提供できるようにした。

〈カナダ大使館での公開フォーラムの様子〉

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開・成果の普及

○ 日加両国でCCC公開フォーラムを開催

トロント(カナダ)では、在トロント日本総領事館等のご後援の下、主に教育関係者を対象に、4大学教職員、協力企業、参加学生など様々な視点から5年間の成果を報告し、CCCが国際協働プログラムの優れたモデルであることを発表した。また、東京においては、カナダ大使館のご協力の下、主に企業関係者を対象に、産学連携の可能性を議論する公開フォーラムを実施。「CCCに協力したい」という声もあったことから、CCCが産学連携の新たなモデルとして有効であることを企業にアピールできたと考える。

